

令和 4 年 第 1 0 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和4年9月29日(木)

開会午後1時30分、閉会午後1時42分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

| | | | | | |
|----|------|----|--------|-----|--------|
| 1番 | 黒田 卓 | 2番 | 町野 利道 | 3番 | 村上 美也子 |
| 4番 | 坪池 宏 | 5番 | 大西 ゆかり | 教育長 | 荻布 佳子 |

IV 説明出席者

| | | | |
|--------|--------|------------|-------|
| 教育次長 | 広沢 久也 | 教育次長 | 中崎 健志 |
| 教育企画課長 | 坂林 根則 | 生涯学習・文化財室長 | 吉田 学 |
| 教職員課長 | 板倉 由美子 | 県立学校課長 | 番留 幸雄 |
| 小中学校課長 | 水戸 英之 | 保健体育課長 | 大島 一恵 |

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(令和4年8月30日開催の令和4年第9回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 臨時代理について(令和4年9月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(2) 令和5年度富山県公立学校教員任用候補者名簿登載状況について

教職員課長から説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後1時53分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第21号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第21号 令和4年度教育功労者等表彰の件

教育企画課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第21号については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○報告事項(1)関係

〔町野委員〕

・いよいよ65歳まで定年延長になったという感じだ。富山県は全国的に見てスピードはどういう位置にあるのか。

〔教育企画課長〕

・今回の定年延長については地方公務員法の改正に伴い実施するものであるから、全国一律である。

〔町野委員〕

・全国一斉か。

〔教育企画課長〕

・国家公務員も含めて公務員全体が同じタイミングで定年が65歳になるということである。

〔町野委員〕

・2年ごとに1歳ずつ延長する仕組みも全国同じなのか。

〔教育企画課長〕

・そうである。

〔町野委員〕

・わかった。

○報告事項(2)関係

〔村上委員〕

・富山県内で教職を志す志願者の数が減っているという事が全国のニュースでも言われているが、この過去の平成26年から見て、合格したのだが辞退をするという人数というのは、これもまた増えているものなのか。そしてそれは登載者の他に補欠者があるが、その人数を上回ることはないのか。

〔教職員課長〕

・一定程度、登載者の中から辞退される方は例年おり、たとえば他の県に行かれるという、日程の関係で併願できるような方が、地元なり別のところに行かれることもある。そういうことを見越して、それぞれの校種、小学校とか、本県であれば中高の枠で教科別に採用数は決めているのだが、その教科の県外の合格者の人数であるとか、そういうことを考慮しながら補欠者数を定めており、これまでの経験値なりを見越して補欠者数を定めており、だいたいこのような数になると思っている。

〔坪池委員〕

・大学推薦の場合でも不合格になる者はいるのか。

〔教職員課長〕

・昨年の10名というのは県内大学2校で10名であるが、今回は県外も含めた大学に広げてこれだけ多くの方に来ていただいたのだが、1名が不合格となった。

〔坪池委員〕

・わかった。

〔大西委員〕

・教員の確保については、いろんな方法を考えてアイデアを出して対応しておられると感じているが、今回は大学推薦枠を県外に広げられたということで功を奏しているように感じる。今後の拡大については、さらに具体的な考えなどはあるのか。

〔教職員課長〕

・大学推薦については今ほども申しあげたが、県内の教員養成2校から、他県のこれまで本県への採用実績を踏まえた大学という形で増やしてきたものと、他は富山県と就職協定を結んでいる大学や、本県でなかなか採用確保が難しい特別な教科、たとえば技術であるとか、工業であるとか、情報であるとか、本県で教員免許が発行できないような、そういう教職課程をもっている大学の推薦枠を増やしたということで、そういつ

た希少な教科の推薦もいただけたということで、今後も積極的に進めていきたいと思っている。

〔教育長〕

- ・今回の状況も振り返りながら、全国の情報も収集して毎年毎年いろいろ検討していきたいと思っている。

〔黒田委員〕

- ・教職経験を持った方の枠で、その数が昨年より増えているかと思うのだが、内訳的には他県で教鞭をとられている方で受検される方が多いのか、それともいわゆる休眠的にというか、教員されていたのだけれど、介護等の都合で辞められて何年かたってという方がいらっしゃるのか。その内訳みたいなものは分かるか。

〔教職員課長〕

- ・教職経験のこの枠は、昨年度までは県外の公立学校で実際に教員をしている方についての枠であったが、今年度はじめて、本県で教職経験があり事情があって一旦退職された方を対象にしたものである。その内訳としては、今回の志願者のうち8名が定年前の本県の退職者である。その中で6名が合格という形になっている。

午後2時14分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。